

“森から世界を変える” REDD+プラットフォーム
ビジネスモデル分科会

第1回勉強会

2014年12月24日 14:00~15:30

ビジネスモデル分科会事務局

 住友林業



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

ビジネスモデル分科会において優先すべき検討事項

REDD+活動の実施

従来ODA事業の
実施者
(開発コンサル、航測
会社、NGO等)

大多数の関係者

分科会の
初期段階のターゲット

森林保全の
主要プレイヤー
(現状ではFS事業者等
にとどまる)

温暖化ビジネス
の実施者
(クレジットプロバイ
ダー、商社、ファンド
等)

REDD+ビジネス
モデルの具現化

ビジネス化

- 先行的に取組を進めている「森林保全の主要プレイヤー」がREDD+ビジネスをけん引していく可能性が高い
- そのために、ODAの実績・基盤の活用といった公的支援だけでなく、多くの関係者からの活動資金拠出やクレジット購入といった**民間支援**が必要
- 本分科会では、とくに、民間支援のあり方に着目する

民間支援の獲得に向けての実施事項：
支援者の裾野を広げる

- ・ 新規プレイヤー参入のための足場づくり
- ・ 既存プレイヤーとの連携構築

※ 民間の取組を補完する公的支援についても考慮

ビジネスに活かすREDD+の事例・取組のご紹介

■ コンサベーション・インターナショナル・ジャパン

- 国際NGOとして、自己資金及び外部資金により、途上国各国での森林保全活動に取り組むと同時に、活動により得られた排出削減量をクレジット化し、民間事業者へ販売。

■ NTTデータ経営研究所

- 海外事業者と共同でインドネシアにてREDD+プロジェクトを開発、国内の関心を有する民間事業者のクレジット購入及びカーボンオフセットを実施。

■ 日本電気株式会社（NEC）

- 国内の民間事業者と連携し、財団等からの資金支援を受けてREDD+プロジェクトの実施に向け取り組んでいる。プロジェクトにおいては、現地調査及び衛星等の技術分析を担当。

今後の予定

■ 第2回会合（勉強会）

- 開催予定：2015年1月26日
- テーマ：REDD+の事業化ステップ（仮）

■ 第3回会合（定例会）

- 開催予定：2015年3月下旬
- テーマ：REDD+ステークホルダーによる連携モデルの構築（仮）